



鈴木隆さん 日本一おいしい米コンテストで「優良金賞」
 平成26年11月、山形県庄内町で開催された「第8回あなたが選ぶ日本一おいしい米コンテスト」で、鈴木隆さん（東飯田地区）が優良金賞を受賞しました。
 このコンテストは、おいしい米づくりを全国に発信することを目的に、予選から決勝まで実際に食べて審査するのが特徴です。鈴木さんの生産するコシヒカリは、県内で唯一決勝大会に進出し、全国から出品された409点にも及ぶさまざまな品種の米の中から、見事に受賞となりました。
 鈴木さんは、「今後も高品質米の生産を追求したい」と話していました。



石材施工技能士の岩瀬久之さんが 全国技能士会連合会会長表彰
 平成26年11月、真壁石工技能士会会長の岩瀬久之さん（大國玉地区）が、全国技能士会連合会会長表彰を受賞しました。
 これは、技能士の社会的地位の向上と同会の発展に尽力された方を表彰するもので、今回、全国石材技能士会理事や真壁石工技能士会会長として同会の発展に努めている岩瀬さんの功績が認められました。
 現在、地場産業の発展や後継者育成に取り組んでいる岩瀬さんは、「職人の伝統技法が失われないように、若い人たちに少しでも技術を伝承していきたい」と話していました。

伝統工芸士の小原正さんが 経済産業大臣功労者表彰

平成26年10月、真壁石灯籠伝統工芸士会の小原正さん（真壁町桜井地区）が、経済産業大臣から伝統的工芸品産業功労者表彰を受賞しました。
 これは、伝統的工芸品産業の振興に顕著な功労があった個人・団体を表彰するもので、今回、同会の副会長、会長などを務め、伝統的工芸品「真壁石灯籠」の振興に努めてきた小原さんの功績が認められました。
 小原さんは、「会員の皆さんの協力で、伝統的工芸品産業の振興をスムーズに行えました。真壁石灯籠を市内外に広めていきたい」と話していました。



茨城県技能者表彰 石彫工の坂口登さんが
 平成26年11月、茨城県庁で開催された第44回茨城県職業能力開発促進大会で、石彫工の坂口登さん（真壁町亀熊地区）が茨城県技能者表彰を受賞しました。
 坂口さんは、伝統的技法と現代の加工技術を融合させた優れた石彫品等を製作し、数多くの表彰を受けているほか、若手職人の育成にも力を注いでいます。
 また、業界団体の理事を務めるなどの石材業界への多年にわたる貢献や、県産石材の普及啓発、東日本大震災時の被災地の復興支援などの社会貢献活動等が評価され、今回の受賞となりました。



橋本県知事から茨城県知事表彰を受賞した坂口登さん

農作業のついでに 豊作祈願「鍬の祭」

1月3日、大國玉神社（太田良正宮司）で、家内安全・五穀豊穡を祈願する「鍬の祭」が行われました。
 この祭りは、田遊びの神事ともいわれ、当日は、社殿の前庭にサカキの小枝を敷いて神田を作り、その中で、宮司がサカキで作った鍬で田越こしから田植えまでのしぐさをしながら唱え言をして豊作を祈願しました。
 祭りの最後には、参拝客がご飯の入ったおひつの中に豆を投げ入れ、その豆ごはんを味わい、今年の家内安全・五穀豊穡を祈願しました。



7合のご飯「もつそう」を 食べ合う「大飯祭り」
 平成26年12月7日、下泉地区の集会所で「大飯祭り」が開催されました。
 約500年続くこの伝統行事は、地元の鹿島神社の氏子たちが集まり、作物の実りへの感謝と人々の健康を祈願するものです。
 当日は、お椀に高く盛られた7合のご飯「もつそう」を氏子たちが食べ合い、途中で「今浜さま」と呼ばれる神様が、「もつと食べろ」とご飯を進めて回りました。
 同地区の仁平俊夫区長は、「專業農家は減ってきているが、伝統あるお祭りを絶やす事なく、この地域で楽しみながら継承していきたいです」と話していました。



高く盛られた7合のご飯をもつと食べると氏子たちに進めて回る「今浜さま」

小・中学生が日常の思い語る 「青少年の主張大会」

平成26年12月5日、岩瀬西中学校で、青少年育成桜川市民会議主催の「第9回桜川市青少年の主張大会」が開催されました。
 本大会は、青少年が日常生活の中で感じたことなどを社会に訴え、それを青少年の育成活動に反映させることを目的としたものです。今年から、より多くの児童・生徒たちにも発表を聞いてもらおうと、会場をシトラスから各中学校回り番制にしました。
 当日は岩瀬小と坂戸小学校、市内5中学校から選出された児童・生徒7人が「私と水泳」「明日への課題」など様々なテーマでそれぞれの主張を発表しました。



手打ちそば大好き会が そばをプレゼント
 平成26年12月、大和地区の手打ちそば大好き会（阿部田修会長）が、ボランティアで、市内福祉施設の施設利用者の皆さんに手打ちそばを振る舞いました。
 同会は、市内外のイベントへ参加したり、年に1度、独居老人の方へそばを振る舞ったりしています。
 今回は、市内4か所の福祉施設を訪れ、その場でそばを手打ちし、計600人分のそばを振る舞いました。同会員たちは、「年越しそばを食べていただき、喜んでもらいたい」と話していました。このボランティアは、10年以上継続して実施されています。

日常の思いを発表した児童・生徒と青少年育成桜川市民会議役員の方たち